



便利さの裏に潜む怖さ



公益社団法人 日本防犯設備協会 特別講師 富田 俊彦

1 急速に進化する防犯機器

物がインターネットにつながるIoTの時代が到来して、ビックデータとAI(人工知能)が連動する新たな防犯機器が次々と開発されています。監視カメラが他のAI技術と融合することによって多様化・高機能化が急速に進み、防犯だけではなく、防災や雑踏警備、社会インフラなど国民に質の高い機器が提供されています。更に、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックに向けて、防犯機器の研究と開発が加速されている今、私達は防犯のプロとして進化する防犯機器の現状を正しく理解して適切に対応することを求められています。

2 便利さの裏に潜む怖さ

「防犯の要」と言われるカギも進化しており、ノンタッチキー、カードキーをはじめ、指紋、静脈等のバイオメトリックスを利用した電気錠システムが普及しています。

一方では、インターネットで合鍵を複製した犯人が女性の部屋に不法侵入する事件や、電子キーの制御設定を変更して不正解錠し自動車を多量に窃取する事件など新たな手口の犯罪が発生しています。カメラの高機能化・高解像度化によって人の目では見えない遠方から気付かない間に撮影され鮮明画像で瞬時に何処でも見ることが出来ます。使い易さ、格好良さを優先するあまり、安全性が疎かになって、映りすぎのリスクを抱え、予想もしなかった新たな手口の犯罪を誘発し、流出した画像で誹謗中傷されるなど国民生活に悪影響を及ぼす危険性があります。

3 見えすぎる怖さ

錠前はスマートフォンを使い遠隔操作してドア錠を施解錠するAIの時代を迎えています。指紋は「万人不動、終生不変」と言われますが、スマートフォンで撮影したピース画像から指紋を盗み取って、3Dで偽の指を作り、偽造した指の指紋から、本人になりすましてパソコン等に不正侵入することが可能になっています。

最近の新聞報道によると、パソコンの位置情報(ストリートビュー)を使用して、犯行対象の住宅を検索して空き巣を繰り返していた4人組の窃盗グループが検挙されました。見ず知らずの他人に我が家をいつも見られていることに不安を感じます。

4 見られている怖さ

「顔認証システム」は、ここ数年で急速に普及し、スマホのロック解除、業務用パソコンにログインする際の本人確認、スーパー・書店・ドラッグストアでの万引き防止、空港ビルやスタジアムでの不審者の検索やテロ対策、会社やテーマパークの入退場ゲートのチェック、会員制飲食店の入店チェックなど様々な分野で使用されています。高精度の防犯カメラが各所に設置されて、日常生活で知らない間に、群衆の中の自分の顔が常時撮影され続け、解像度の高い映像で瞬時に個人識別され、事前登録した指名手配犯人などと照合されています。マスクやサングラスを掛けていても顔の一部からAIが推測して本人確認することが可能となり、顔認証システムの精度は99.2%に上っています。

更にカメラは、「群衆の中で不自然な人の行動を読み取る動体検知。人の心理状態から身体の揺れの変化や

体温で興奮状態を読み取る感情検知。人の歩き方から特徴をつかんで個人を特定する歩容認証」など夢の様なシステムが次々と開発されています。

5 場所を特定される怖さ

平成29年3月15日「全地球測位システム(GPS)端末を使用した捜査は違法である」と最高裁判決が出され、本年3月22日、東京高裁では「令状をとらずにGPSシステムを使用して行われた捜査は違法である」と連続空き巣事件で無罪判決が出ました。

一方では、同様のGPSシステムの機器を一般人がネットで簡単にリースして浮気調査や行動確認などで使われているのが現状です。スマートフォンのSNSを使い書き込みや写真投稿する際に、GPS機能をONの状態にすると投稿場所や写真の撮影場所などが閲覧者に分かってしまう恐れがあります。

6 画像を活用した新技術の取り組み

画像の鮮明度と解析技術が急速に進み「防犯カメラ映像は警察の武器」と言われるほど事件・事故の捜査資料で有効に活用されています。更に情報技術が進み設置されたカメラや車載カメラから収集した画像と地図情報や統計データをAIで融合させ、不審者の行動を自動検出し、犯罪の発生を予測して、画像解析や顔認証システムによる指名手配容疑者の特定やドローンによる容疑者の追跡など新たな技術研究と開発が期待されます。

7 問題点と対策

私達は、進化し続ける技術の恩恵を受け、便利さを共有していますが、その裏に潜むリスクや現状の問題点を把握して、機器のシステムや性能・品質を十分理解すると共に、新たに開発された防犯機器の使用目的を明確にして、許容範囲を検討するなど、一定の線引きや必要な法規制を行い、プライバシー保護や個人情報保護法を遵守しなければなりません。防犯リーダーである総合防犯設備士と防犯設備士は、次々と開発される防犯機器に精通し、専門知識と経験に裏付けられた技術を効果的に使い、犯罪の抑止と国民生活の安全に貢献することを求められています。